

福祉と医療の学習会
テーマ：医療機関の情報冊子作り（第3回）

2006年4月15日 千葉県立東金病院大会議室

参加者 男性3名 女性2名

1. 地域医療を育てる会について（代表藤本）

2. 自己紹介

藤本 東金在住 地域医療を育てる会代表 この地域に「対話をする関係」を作りたい

石井 大網白里町在住 子どもが障害を持っている。障害者とその家族が医療の面で様々な苦勞をしていることなどを皆さんに伝えたい。

相京 東金在住 今まで、地域医療に関する情報をクローバーを通して集めていた。自分も情報発信をしていけるようにしたい。

佐藤 大網白里町在住 持病があり、現在病院に通っている 医療現場の大変さを感じた。自分に出来ることを何かしたい。

中嶋 大網白里町在住 いい医療があればと、こちらに住まいを移したが、満足した医療に出会えず鴨川の大病院へ。医療には満足したが、余りにも遠い。地域が抱えている問題が徐々にわかり、大変さを感じている。

某NPOの活動をしており、そちらでは地域おこしのテーマで活動している。千葉東部は過疎が異常な速度で進んでいて極めて危機的な状況であることを確認しあいたい。人を呼び寄せることの出来る「まちづくり」が何よりも先行しなくてはと思っている。

3. 現在までの経過と今後の予定（別紙参照）

2月の学習会で、この地域の課題を考えて出し合った。すぐに自分たちで取り組めそうなものを考え、「この地域の医療機関の情報冊子を作ろう」と言うことに。

3月の学習会では、情報冊子の内容を考えた。以下のとおり。

（全体）地図・バス停

診療科目ごとの目次・一覧

コラム（こんな医療機関があったらいいな、地域の医療に望むことなど）

（各医療機関の情報）

所在地

診療科目（専門科目 例：神経内科 など）

電話番号、FAX

診療時間、休診日
 往診
 移送（送迎）サービス
 近くのバス停・飲食店（徒歩何分か）
 子ども用スペースの有無
 セールスポイント
 障害者の対応
 車椅子 可・否
 身体障害者の受診 可・否
 知的障害者の受診 可・否
 障害者受診サポート手帳の対応
 手話通訳者がいるか

（協議）

これだけの情報を出してもらうために、医師会に働きかけている。（医師会長へ藤本が連絡）現在、医師会の理事会で検討していただくことに。

製薬会社のセールスマンの方に協力をお願いする方法もある。薬剤関係のアンケートも入れながらということになるだろう。

情報をどこまで出すかが問題。医療を受ける側と、医療側の立場で、ほしい情報・出したい情報が違うだろう。患者の視点で情報をお願いすることになるだろうが、情報を出してもらえない場合は、こちらで調べるといふ強い姿勢も必要ではないか。協力してもらえなければ、「協力してもらえなかった」とことわって情報を出すなど。

アンケートの質問項目全体を冊子のどこかに載せれば、回答の有無がはっきりする。各医療機関の欄でも、回答のなかった項目は空白にする。

医者意識を高めていく必要がある。地位にあぐらをかいている状態の医師もいるので。

住民主体の、ほしい情報を出す方がいいのでは。それによって住民が医療機関に対して要望していることが伝わり、医療側が改善してくれればいいのだが。感情がこじれると、うまくいかなくなることがあるので、アンケートのとり方も難しい。

自分の家族が、女性の医師のいる医療機関を探していったことがある。

障害者の方や介護者の方の気持ち・医療機関へかかるときの困難さを知りたい。歯科医の情報や、薬局の情報も必要だろうか。

知的障害者にとっては受診できる歯科医の情報は必要。今は口コミが頼りなので。城西国際大学の袁先生にお願いして、簡単なパンフレット程度のボリュームなら協力してもらえることになっている。

病院と医院のかかり方の違いなど、自分自身も今までわかっていなかった。
他の地域から引っ越してくる人は先住の方の口コミ情報が頼りである。
紙で情報を出すと、更新が大変。更新や公開が簡単な情報発信をしたほうが良い
のではないかと。医療機関のよしあしも変わっていくことだろうし。
発行費用については学習会の経費から出せるように考える。(毎月5千円の予算を
組んでいるので、これをまとめて講演会の講師の車代に当てる。発行経費もこの
中から出せるようにしたい。それでも不足した場合は、この場で協議する。)

4. 懇談会について

障害者の医療に関する懇談会を開催する。

日程調整は石井さん・山中さん担当。(子どもが学校のあるときの方が保護者が出席しやす
いので、平日に行う)

医療関係者への依頼は今回はなし。まずは当事者のみの声を集める。

5. 講演会について

年2回開催予定(テーマ、講師は以下のとおり)

障害者の医療 市川親の会代表者 市川市医師会長 東金親の会代表者
在宅のターミナルケア 地域医療を育てる会会員 県立東金病院平井先生
NPOピュア代表藤田さん

6. そのほか

クローバーの発行部数と配布先

毎月2万部発行 うち1万7千部は東金市内各戸配布。他市町は役場窓口、図書館、
医療機関などに設置

今後、東金以外の自治体の配布対象を広げるとすると、発行部数を増やさなくては
ならないが・・・

紙を現物支給してもらえると助かる。交渉します。(中嶋さん)

次回は懇談会の報告。5月20日(土)13:30~16:00
東金病院大会議室にて

(以上)